

主 論 文 要 旨

報 告 番 号	甲 ㊦ 第	号	氏 名	船 山 道 隆
主 論 文 題 名 Semantic memory deficits are associated with pica in individuals with acquired brain injury (後天性脳損傷に出現する異食症は意味記憶障害と関連する)				
(内 容 の 要 旨) 【背景】 異食症は介護上で最も大きな厄介な症状のうちのひとつである。急性の中毒、窒息、腸管の穿孔など緊急治療を要することもある。自宅での介護をあきらめ施設入所が必要となることも少なくない。ところで、異食症は変性疾患、後天性脳損傷、統合失調症、自閉症スペクトラム障害、妊婦、乳幼児などに出現するが、機序は明らかになっていなかった。本研究はこれまで行われていなかった異食症の機序を解明することを目的とした。 【対象と方法】 対象は、変性疾患を除いた後天性脳損傷例にて異食症が出現した異食症群11例と対照群として異食には至らないが強い口唇傾向を示す口唇群の8例である。研究方法として、これら2群に対して神経心理学的所見と脳画像の比較を行った。神経心理学的所見としては、前頭葉の解放現象（把握反射、吸引反射、利用行動）、意味記憶（日常物品の使用能力、意味記憶障害に関する介護者への質問紙、日常物品および食事動作の際の意味的誤使用についての介護者への構造的面接）、食行動の異常について調べた。 【結果】 異食症群は口唇群と比較して前頭葉の解放現象は弱く、一方で意味記憶障害は重篤であった。脳画像での比較では、異食症群の病巣は口唇群の病巣と比べて左優位の中側頭葉回後方が中心であった。 【考察】 本研究の神経心理学的所見と脳画像所見は矛盾せず、異食症は左優位の中側頭回後方を中心とする損傷による意味記憶障害が関係する可能性が考えられた。後天性脳損傷に限らず、変性疾患、自閉症スペクトラム障害、乳幼児においても、意味記憶の障害ないしは形成が不十分であるために異食症が出現する可能性がある。また、意味記憶の神経基盤は側頭葉であることが定説であるが、本研究の所見は矛盾しない結果であった。さらに道具/人工物に関する意味記憶は左中側頭回後方を中心とする左半球が神経基盤であるとする研究が少なくないが、本研究での異食の対象の多くは歯磨き粉、洗剤、スポンジなどの道具/人工物であることから、これも矛盾しない結果となった。 異食という厄介な症状に対して、意味記憶による視点を切り口として症状の理解を深め、環境調節等による予防を行うことができるかもしれない。				